

# 右中指深在性真菌症性肉芽腫の1例

中嶋 保治, 三河 義弘, 佐伯 次登

今回、我々は術前診断が困難であった右中指深在性真菌症性肉芽腫の1例を経験したので報告する。軟部腫瘍の診断は比較的困難であり、自験例は発生部位・経過・臨床所見などより腫瘍性病変（特に腱鞘巨細胞腫）が疑われたが、病理診断は深在性真菌症性肉芽腫であった。腫瘍性病変が疑われる症例でも、症例によって培養検査を考慮する必要があると考えられた。

(平成16年2月13日受理)

## A Case of Granuloma Associated with Deep-seated Mycosis of the Right Middle Finger

Yasuharu NAKASHIMA, Yoshihiro MIKAWA, Tsuguto SAEKI

We report a rare case of granuloma associated with deep-seated mycosis of the right middle finger. It is difficult to diagnose soft tissue tumors, and this case was at first considered to be a giant cell tumor of the tendon sheath. However, the pathological diagnosis was granuloma associated with deep-seated mycosis.

If a case involves a suspected neoplasm, a culture of the tissue should be taken and examined.

(Accepted on February 13, 2004) *Kawasaki Igakkaishi* 29(4) : 299-303, 2003

**Key Words** ① Soft tissue tumor ② Deep-seated mycosis

### はじめに

手指軟部腫瘍の正確な術前診断は、比較的困難である。近年医療の高度化（特に移植医療や癌治療）に伴い、深在性真菌症が注目されている。今回、我々は術前診断が困難であった右中指深在性真菌症性肉芽腫の1例を経験したので報告する。

### 症 例

患者：66歳，女性，主婦。

既往歴：特記すべきものなし。

現病歴：約10年前より右中指 PIP 関節掌側に腫瘤を認め、徐々に増大し疼痛を生じてきたため当科を初診した。

現症：右中指 PIP 関節掌側に直径約 3 cm 大の弾性硬の腫瘤を認め表層は菲薄化し、脂肪様組織が観察された。(Fig. 1)

臨床検査成績：血液検査では白血球数4600/ $\mu$ lで、分画に異常は認めなかった。血沈は1時間値37 mmと軽度亢進していたが、CRP は0.3 mg/dlと正常上限であった。

画像所見：単純エックス線像では、軟部の腫瘍







- 5) 清 佳浩：【外来診療に必要な皮膚科検査マニュアル】皮膚科外来診療に必要な真菌学的検査. MB  
Derma 41：21-26, 2000